



「労働災害を起こさないための組織風土づくり」

【図1】 暖ったか職場と冷え冷え職場

暖ったか職場	冷え冷え職場
言えば改善の可能性	言い出しっぺは損
問題を提起することを評価	やっても無駄な雰囲気
問題が小さいうちに顕在化	問題が隠蔽される
話す機会がある	文句を言わず黙って従う

① 組織風土は変えやすい

最近では労働災害の防止のため、ハード面の向上がめざましいです。例えば濡れた床でもすべりにくい長靴が開発され、実際の現場で使われています。ただし、ハード面だけ向上しても、ソフト面の安全意識が高めなければ、完全な労働災害の減少にはつながらないと考えます。

そこで「組織風土」を改善することから、労働災害を防止する手法をご紹介します。

ここでいう「組織風土」とは、小さな組織で見られる共通の規範、価値観を指し、時の流れ等により変わりやすいが、それゆえに積極的に変えることができるものを言います。

【図2】 正に働く安全意識の項目

該当する項目	
正の安全意識	従事している仕事に誇りをもっている
	不安全行動を黙認しない。手順を守らないとき注意
	作業前にチェックし、作業手順を必ず守る
	事故防止に関する意識をもっている

② 暖ったか職場と冷え冷え職場

いわゆる風通しのよい組織を、「暖ったか職場」ということにしましょう。「暖ったか職場」では、報連相が活発で、上司・部下はお互い話しやすい雰囲気があります。反対に「冷え冷え職場」では、いつも不安を感じながら仕事をし、単独で判断することが常態化しています。

一般的に、風通しのよい組織である「暖ったか職場」では、労働災害が起きにくいと言われてます。それを実証するデータが次になります。

【図3】 負に働く安全意識の項目

該当する項目	
負の安全意識	工程を重視し、多少無理な作業もやむを得ない
	早く仕事を終わらせることがいつも頭にある
	自分だけ安全規制を守らないのはばかばかしい
	安全確保は個人よりも会社の姿勢が問題だと思う

③ 仕事に誇りをもつほど労働災害は起きにくい

建設現場の安全風土を研究した結果によると、自分の仕事に誇りをもつ現場ほど、労働災害が起きにくいという結果がありました。車をきれいにしている人は、安全に対する意識が高いそうです。私自身の経験からもきれいにしたあとは、丁寧な運転しようと思いがけています。

自分の仕事に誇りをもつことは、丁寧な仕事をするということです。すべてのことに気配りをし、無理をしない仕事をするのが労働災害の防止につながるの、と思います。

参照:「作業現場の風土が安全に及ぼす影響」産業医科大学産業保健学部 庄司卓郎 (建設マネジメント技術2008年2月号P12)

事務所日誌



●8月の事務所の活動

- 2日 人材育成交流会「DXセミナー」に参加
- 4日 井原商工会議所「定例労務相談」相談員
- 17日 オンライン早朝読書会「いばら朝喝同好会」に参加
- 19日 外国人技能実習生向けの法的保護講習の講師
- 23日 オンライン「ゆうかつ(読書会)」に参加

■編集好き

▼夏休みに子どものラジオ体操に付き添って家を出たとき、道路の上で転んで、右手をすりむいてしまいました。少し高い段差のあるところから飛んだだけだったのですが、バランスを崩して転倒したのです。ある意味、夏休みの思い出になりました(SS)

最近、事務所に寄せられたご相談



Q 1ヵ月単位の変形労働時間制を導入したいのですが、その方法を教えてください

A 1ヵ月単位の変形労働時間制とは、1ヵ月を平均し週の所定労働時間が40時間(10人未満の特例措置対象事業は44時間)となるよう、あらかじめ勤務表を組み運用することです。

そのため勤務の開始時刻と終了時刻のパターンを示しておく必要があります。パターンはあらかじめ表示しておかなければいけませんので、注意しましょう。

▶その他ご相談も当事務所のHPIに掲載しています